

Course number		U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー：臨床的に話を聴く ILAS Seminar :The Art of Clinical Listening		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Education Associate Professor,HATANAKA CHIHIRO		
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences		Number of credits	2	Number of weekly time blocks	1
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2026・First semester		Quota (Freshman)	10 (10)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors		Days and periods	Tue.3
Classroom	(Main Campus)				Language of instruction	Japanese
Keyword	話を聴く / 心理療法・心理カウンセリング					
[Overview and purpose of the course]						
臨床心理学の基礎に「話を聴く」ことがある。聞く・聴くという行為は非常に日常的で誰もが容易に行える一方で、それを「うまく」行うことは非常に難しい。関係が近い人や好きな人に自分の大事な話はしにくいということがあるように、人が「話をしやすい相手」だと感じる条件は非常に複雑で言語化や可視化が難しい心の領域といえるだろう。 では、心理療法や心理カウンセリングに携わる臨床心理の専門家はどのように話を聴いているのだろうか。近年ではプロのカウンセラーの話を聴く技術についての出版物も容易に手に入るようになっており、自発的な学びの中でもある程度臨床的技法について知ることができる。しかし、聴くことの専門性は実践知であり、実際に自分がどのように話を聴いているのかについて振り返り、考えることは難しい。 この授業では、実習形式でのワークやグループでのディスカッション等を通じて「話を聴く」という行為について問い直し、その心理臨床的専門性に触れると共に自らの聴き方のスタイルについても改めて考えてみることを目的とする。						
[Course objectives]						
1. 話を聴くことに関する臨床心理学的な基本概念を理解する 　　一話を聴くことを広く捉え、非言語的なツールを含む臨床心理学的な技法や現代的な方法論について学ぶ 2. 議論やワークを通じて、自身が聴いているときに何を感じ、どのように反応しているかを振り返り、言葉にする力を養う 　　一単に文字通りに受け取るだけでなく、語りの背景や沈黙、身体的反応などを手がかりに、語り手の経験に寄り添う柔軟な聴き方を身につける 3. 議論やワークを通じて、自身の体験を言語化して共有したり、グループ活動において相手の体験を尊重することができるようになる 　　一他者のあり方から相対的に自身を振り返り、聴き方のスタイルや課題を省察し、今後の実践に向けた展望を描けるようになる 4. 人の心に関わるような可視化・言語化が難しい領域における専門性について考える機会をもつ 　　ことで、自身の専門分野における“専門性とは何か”を問い直し、その抽象的な核を見つけ出す視点と感受性を養う						
Continue to ILASセミナー：臨床的に話を聴く(2)↓↓↓						

ILASセミナー：臨床的に話を聴く(2)

[Course schedule and contents]

以下の計画に沿って授業を進める。ワークを多く取り入れるため、積極的な参加が求められる。
(進行状況に応じて順序や内容を変更することがある。)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 聴く行為について問い直す：応答のワーク
- 第3回 認知面からみた聴く行為：曖昧さと危うさについて考える
- 第4回 イメージを通して聴く(1)：描画法
- 第5回 イメージを通して聴く(2)：描画法
- 第6回 相互的に聴く(1)：イメージの共有
- 第7回 相互的に聴く(2)：自己の相対化
- 第8回 相互的に聴く(3)：個と集団
- 第9回 現代社会における聴く行為：現代的心性について知る
- 第10回 現代社会における聴く行為：SNSカウンセリング(1)
- 第11回 現代社会における聴く行為：SNSカウンセリング(2)
- 第12回 現代社会における聴く行為：SNSカウンセリング(3)
- 第13回 臨床実践と聴く行為(1)
- 第14回 臨床実践と聴く行為(2)
- 第15回 フィードバック

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

平常点およびレポートの結果により評価する。
全授業日程に参加し、議論やワークに積極的に取り組むことが求められる。

平常点評価 60% (授業への参加状況、授業内でのワークや議論での発言や取り組み態度、小レポート)

最終レポート 40% (課題は最終日までに授業内で知らせる)

[Textbooks]

Instructed during class

[References, etc.]

(References, etc.)

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

授業内では議論やワークを主に進めるため、その日が終わったら自身の体験について振り返り、整理して次の日程に臨むことが求められます。

[Other information (office hours, etc.)]

心の領域への関心をもとに自身の内的体験を大事にし、ワークや議論に前向きに参加する意欲を持っていること、積極的に議論に貢献することが求められます。所属学部は問いません。

[Essential courses]